

小型照射野 X 線 CT (3 DX) による画像診断： 埋伏過剰歯の 1 症例

永山 哲聖, 内田 啓一, 新井 嘉則, 塩島 勝

松本歯科大学 歯科放射線学講座

田中 丈也, 栗原 三郎

松本歯科大学 歯科矯正学講座

Diagnostic Imaging by Limited Cone Beam CT (3 DX) :
A Case of Impacted Tooth

TESSEI NAGAYAMA, KEIICHI UCHIDA, YOSHINORI ARAI and MASARU SHIOJIMA

Department of Oral Radiology, Matsumoto Dental University School of Dentistry

TAKEYA TANAKA and SABUROU KURIHARA

Department of Orthodontics, Matsumoto Dental University School of Dentistry

日常臨床において過剰歯の位置確認を行う場合、X 線検査は重要である。しかしながら通常の画像検査では、とくに上顎過剰歯と近接する歯との位置関係を診断することは困難であり、X 線 CT 検査を行うこともあるが、患者への被曝線量も考慮しなければならない。

今回、歯科用小照射野 X 線 CT (株モリタ製作所、京都、以下 3 DX) による画像診断において、過剰歯の位置関係の把握に有用であった 1 例を経験したのでその写真を供覧する。

患者は 26 歳男性であり、本学矯正歯科にて矯正治療中で、上顎埋伏過剰歯の診断のため X 線検査を行った。断層方式パノラマ X 線写真において、上顎左側側切歯の根尖相当部に、過剰歯が近遠心的に水平に埋伏しているのが認められ (写真 1)、口内法 X 線写真および咬合法 X 線写真 (写真 2, 3) では上顎左側側切歯の根尖相当部に過剰歯の歯冠が近接し、歯根は上顎左側犬歯の歯根と重複していた。そこで 3 次元的位置関係を明ら

かにするために 3 DX の撮影を行った。

3 DX 画像では過剰歯の歯冠部が上顎左側側切歯の根尖相当部の上方で唇側に認められ、歯根は大きく彎曲し左側犬歯根尖の口蓋側に認められた

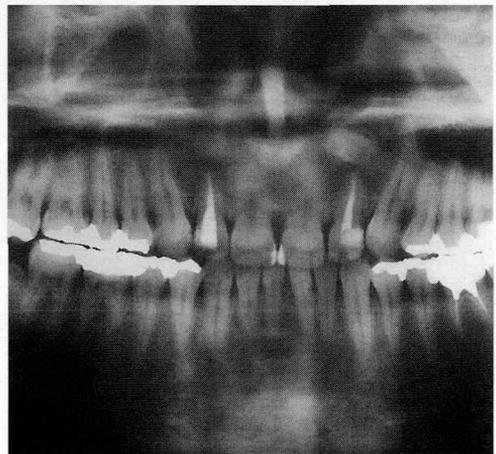


写真 1 : 断層方式パノラマ X 線写真



写真 2 : 口内法 X 線写真



写真 3 : 咬合法 X 線写真

(写真 4).

過剰歯の画像検査には根尖投影法や口内撮影法咬合法(軸方向投影法)が行われてきたが、隣在する歯根などとの位置関係が判然としない場合が

あった。しかし、今回のように3DXを使用することで3次元的な位置関係が容易観察することが可能となり、矯正治療への立案や患者説明に有用であることが明らかになった。

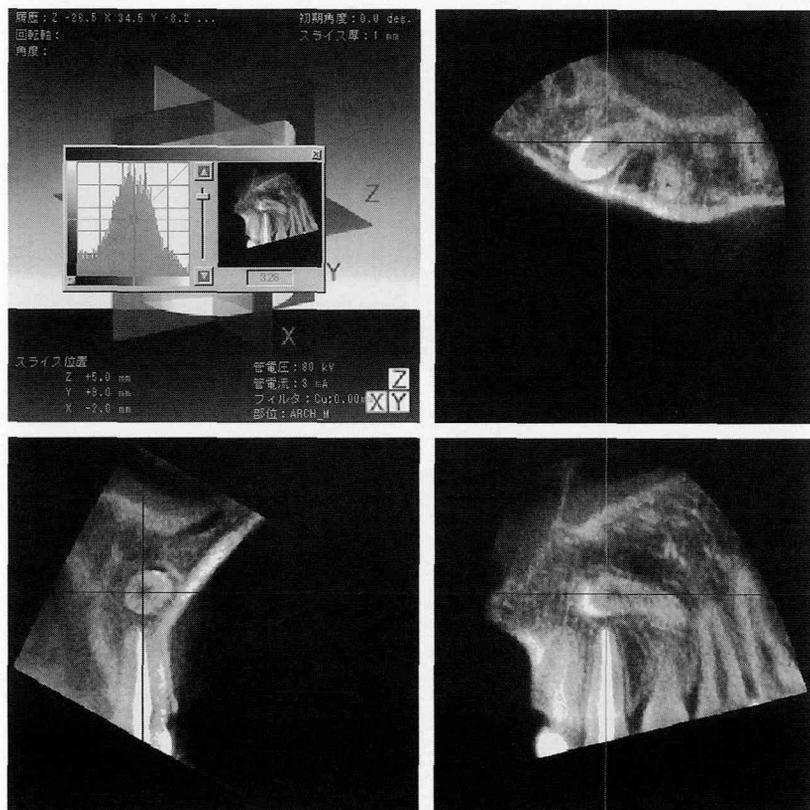


写真4：3DX画像